

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300138		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里みしまの家		
所在地	那須塩原市東三島1-104-223		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果市町村受理日	平成26年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年 2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名入居定員の、小規模なグループホームですが、小規模ならではのアウトホームな雰囲気を最大限の利点とし、入居者様がゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりが出来よう努めています。特別変わった介護や援助を行っているわけではありませんが、入居者様が安心して且つ安全に過ごせる生活環境を、法人の理念である「人としての生命・人としての生活」があたりまえに行える場所として、みしまの家が存在できればと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内の中心地に近い新興住宅地ではあるが、周辺には田畑や林があり静かにゆったりと暮らせる環境にある。1ユニット9名の小規模性を活かし、家庭的な雰囲気の中で利用者がゆったりと落ち着いて暮らせるよう支援に努めている。同法人の系列下には病院や特別養護老人ホームがあり、医療面や介護面での連携体制が充実しており、利用者や家族の安心に繋がっている。外出支援は日常的な散歩や買い物等のほかに塩原温泉での入浴が利用者の楽しみとなっている。運営推進会議のメンバーや市との関係性も良好で、建設的な意見や助言、指導等によりサービス向上に努めている。建物は和風の造りで木の温もりが感じられ、室内は明るく落ち着いた雰囲気となっている。居室の各設備も充実しており、使い慣れた物の持ち込みにより在宅時と同様に居心地良く過ごせるよう配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の基本理念である「人としての生命・人としての生活」の実現を目指し、利用者様が住みなれた地域に根ざした生活が営めるように努めている。	法人の基本理念である「人としての生命・人としての生活」を掲げて職員で共有しながら利用者の生活向上に努めている。当施設独自のわかりやすい理念を作ることを検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	項目の状況には至っていないのが現実。事業所全体が施設内の入居者様の援助のみに目が向いてしまい、地域にまで意識が向かない様子。実現できるように要検討。	自治会に加入しており、自治会の主な行事や敬老会、文化祭等の地域行事にも参加している。ボランティアや地域の中学生の職場体験「マイチャレンジ」の受け入れを行っている。日常的に近隣への散歩や買い物等をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践は不十分。今後の検討項目。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域包括支援センター職員・地域住民(民生委員・自治会長)・当事業所職員からなる運営推進会議であるが、特に地域住民からの忌憚ない意見を多くいただけており、サービスの向上に生かせるよう努めている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市職員、利用者家族の参加により併設の小規模多機能施設と合同で開催している。内容は運営の状況報告が主であるが、意見交換の場では主催行事の開催、地域との連携、避難訓練等についての意見も多く提案されており、これらはその後のサービス向上に活かすよう努めている。なお、2か月に1回の開催が困難な状況となっている。	定期的な会議の開催に努めると共に、メンバーについては駐在所、消防署、ボランティア、小中学校等、多方面からの参加を試み、幅広い意見等が得られるよう努め、それらを運営の推進に活かす取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の不明点やその他運営上の疑問点など、随時市職員に連絡し、そのつど答えていただけている。今後も協力関係を築けていけるように努めていきたい。	市担当者が運営推進会議に毎回参加のほか、介護保険制度上の疑問点や運営上の問題も合わせて相談している。市担当者からは適切な指導や情報等を受けており、良好な連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に開放的な空間、環境づくりを行っており、日中は施錠はしていない。行動を束縛する対応はしておらず、当然身体拘束も行っていない。	マニュアル等により勉強会を実施し、職員全体で禁止行為の理解に努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関を含め施錠しておらず、いつでも外に出られる状況となっている。言葉による拘束にも配慮し「言い方の研究」も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会などを行い、職員間の意志の疎通を図り、虐待についての知識を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学習会などで行えるよう検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所側としては十分な説明を行い、同意はいただけていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族ののご意見・ご要望については随時話し合い対応している。また年度末に全体会議を行い今後の運営に反映できるよう検討している。	日常の支援の中で、利用者の要望等を把握するよう努めている。家族からは面会時や毎月の料金収納時に意見等を聞いており、その都度話し合いにより対応している。総体的には年度末の全体会議で検討しその後の運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や全体会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会が設けられるよう努めている。	月1回の職員会議や年度末の全体会議で職員の意見等を収集し運営に反映させている。利用者の支援方法等は、日常の業務の中で職員の意見等に随時対応している。今年度から職員との個別面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう心がけているが、今後職員のモチベーションを向上させる方法については検討が必要かと考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・同法人内の学習会を中心に能力の向上を図っている。また必要に応じた研修がいただけるよう今後検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の同業種間での勉強会や話し合いがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い利用者様の思いや意向の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い御家族の思いや意向の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様の日常生活上「何が不十分か、何が困っているのか」を把握し、そのことを最優先に考えたケア・支援を行えるような利用形態を考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の希望に可能な限り応えようと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・家族それぞれの要望をうまく伝え合いながら支えあっているよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当事業所の利用が始まって、これまでの生活に支障が生じないよう外出や外泊などを薦めることで、社会生活から孤立しないように努めている。	家族の面会は利用者個々に差は見られるが月に1回は実現できるよう努めている。また、友人等の訪問も働きかけを行っている。自宅への外泊や馴染みの飲食店、美容院等への外出、お花見やお祭り等の地域行事に出かけるなど馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居しともに生活していくと自然と入居者様同士の友好関係等が構築されてくるため、その入居者様同士の関係を崩すことのないように、職員は必要な距離を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが停止している状況の利用者様に対して、サービス再開の意向を確認し、サービス終了となった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用前に調査を行い入居者様の思いや意向の把握に努めている。また、ご利用が開始になった後も随時意向の把握が出来るよう努めている。	利用開始事に利用者の生活歴や趣味、思いや希望等を把握するよう努めている。日常的に普段の会話等から本人の思いや意向の把握に努め、意向の表出が困難な場合は状態の変化に留意しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に調査を行い生活歴等の情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人個人の状況に応じた一日の過ごし方が提供できているかどうか疑問。現在再検討が必要かと考える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状を把握し、よりよい生活を営めるには？と言う事を念頭に置いた介護計画が立案できるようカンファレンスを開催している。	課題やケアのあり方について本人や家族の意向を確認し、医療関係者等の意見を取り入れ、利用者の現状を把握のうえカンファレンスを開催して介護計画を作成している。介護計画を大きな目標で設定しているので設定期間は12ヶ月としているが、変化があれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しています。状況に応じた介護計画の見直しは必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は現在難しいところがあり、今後の課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が出来るように努めています。現在入居後、施設内での生活で完結している方が多く再検討が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望を大切に、かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう努めています。またご家族の希望を含んで検査などが受けられるよう連携を行っています。	歯科や眼科については希望するかかりつけ医での受診となっている。内科については入居と同時に家族の同意を得て協力医である黒磯病院の医師に変更している。2週に1回協力医の往診があり、職員・家族で医療情報を共有し連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員にその方の最新の状況が把握できるように介護職員は看護職員と連携し情報を共有している。また状態急変時は速やかな対応が取れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、退院後の生活も検討した方向で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された利用者様はいないが、今後このような状況におかれた場合は速やかに関係職員と御家族・ご利用者様間で話し合い、よりよい支援が出来るように検討していく。	重度化した場合や終末期のあり方については利用開始時に本人及び家族と話し合い、事業所ができることを説明し理解を得ている。現在、末期ガンの利用者があり、週1回の訪問看護師による対応をしている。悪化した場合は病院対応と考えている。今後、重度介護指針を作るべく検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時に備え、すべての職員が対応できるように学習会を設け、実践力を身につけるように努めているよう検討中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・水害の災害時に昼夜を問わず、利用者様が避難できる方法を身につけるよう努める。避難訓練は昨年3月実施。今年度も同様に実施予定。	避難訓練は年1回実施している。開設2年目であることや新興住宅地のため地域との関係が薄く協力は得られていない。非常食等の備蓄も現在は無い。マニュアル見直しを検討している。	避難訓練は消防署や火災報知設備業者及び近隣住民の協力を得て、夜間想定も含めて年2回以上実施し、通報機器類の操作や避難方法等について全職員が実践的な学習を行うよう期待したい。また、水や非常食等の備蓄についても保管場所を設け対応することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけてはいるが今後も職員の意識の向上が必要かと考える。	接遇の勉強会を行っており、職員は利用者の尊厳やプライバシーを守る意識や自覚が大切であることを認識している。呼び方は苗字で「〇〇さん」、トイレ誘導は、小声や個室内で行うよう配慮している。利用者の写真は施設内でのみの掲示としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望があれば、買い物の支援を行ったり、できる限り要望に沿えることが出来るようミーティングなどを行い、満足できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側で決めた日課の流れが中心になっており、職員側優先になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら着る衣類を選んでいただき、決して職員側の押し付けにならないように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳をしてくださる入居者様もいらっしゃるが、食事摂取量や水分摂取量の把握が優先されると職員側の主導になってきてしまっている。	食事は、業者からの食材で職員が調理しており、家庭的で味・量とも適切である。介助のため職員と一緒に食事はしていない。誕生会等の行事食や季節に合わせた食事も取り入れており、近隣への外食と併せて利用者の楽しみとなっている。一部の利用者が下膳や台拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を把握し、記録として残し、状況を把握している。また検食記録をつけ、どのようなメニューが好評なのかもわかるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じて歯ブラシだけでなく口腔ケア用のスポンジなども使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを活かしてトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを基にトイレ誘導などを行い、トイレでの排泄や自立を促している。現在、日中のオムツ使用者はおらず、夜間のみオムツを使用している利用者の排泄は、睡眠を優先して無理にトイレ誘導はせずに、定時で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを活かし、また利用者様に聞き取りを行うなどをし、排便の状況を知る。ただし、現在便秘予防に対して内服薬での対応が多いようで、もう少し工夫が必要と考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在入浴時間を午後に定めて対応している。曜日は限定してはいないが、職員主導になってしまっているところがある。	入浴日や時間帯は利用者の希望に沿うような状況にはないが、3~4人ずつ1日おきに入浴できるよう対応している。ゆっくりと気分良く入浴できるよう入浴剤等を使用したり、季節により菖蒲湯、ゆず湯なども取り入れている。ご当地の温泉に入りに行くのも楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるような環境で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状況に応じて服薬管理を行っている。症状の変化にも気をつけ服薬していただいている。ただし、服薬の内容の理解までは職員間で理解度がばらばらなのが今後の課題。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や催しを企画するだけでなく、入居者様の生活歴や能力を活かして支援が出来るようにしていきたい。現在のところ不十分な対応となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩などが中心になっている。必ずしも入居者様の希望に沿ったものになっているかは不明なため今後の課題。	日常的に近隣への散歩や買い物に出かけたりしている。また、時々公園や温泉などに出かけている。季節によりお花見や初詣等の外出も実施している。今後は家族や地域の協力を得られよう努めたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、小遣い程度のお金を事業所側で預かっている入居者様があり、ご希望に応じて対応している。(近所のスーパーまで買い物に行く。等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接面会という形で入居者様・家族が会う形が多く、あまり電話・手紙のやり取りを行う場面は少ないが、ご希望があれば対応できる体制づくりはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花を飾ったり、現在は加湿器を設置して湿度保全に努めたりして、安全且つ居心地のよいような環境づくりに努めている。	室内は和風の造りとなっており、木の温もりが感じられる。食堂ホールには天窓があり、明るく快適な空間となっている。各居室の入り口には職員の手による利用者の似顔絵が掲示されている。ところどころに季節の花や作品が飾られ生活感や季節感を感じさせ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの場所に関しては居室があり、居室空間＝自宅となっている。応接間を設置しており、個人でテレビを見たり、ご家族との談話に利用している入居者様がいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前項目でも触れたが、居室＝自宅となっておりそれぞれの私物を持参することで入居者様個人個人特有の空間になっている。	居室にはベッド、カーテン、エアコン、洗面台、加湿器が備えられ、床はクッションフロアになっている。各居室の壁は色が少しずつ変えてある。家具類や身近な物の持ち込みは自由で、それぞれにタンスやテレビ、炬燵等や使い慣れた小物類が置かれ、居心地良く過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自主的に掃除をしたり、庭の草むしりをする入居者様がいらっしゃる。今後は入居者様の生活暦などを参考に、無理に薦めるのではなく、自主的に事由に行える環境づくりが出来るように努める。		